

日本旅館国際女将会が研修旅行

異文化を理解、旅館の国際化へ

日本を代表する旅館の女将でつくる日本旅館国際女将会(35会員、長坂正恵会長)は9月5〜11日、日本ホテル教育センター(石塚勉理事長)の支援の下、4回目を迎えた「世界のホスピタリティ体験シリーズ」としてトルコ、ギリシャへの研修旅行を実施した。女将ら12人が参加。日本旅館や女将、和食の魅力をPRするとともに、旅館の国際化への対応に生かそうと、現地の観光地めぐりや文化について学んだ。

旅程は、成田→イスタンブール(トルコ)→エフェソ(トルコ)→キオス島(ギリシャ)→セルチュク(トルコ)→エフェソ(トルコ)→イスタンブール(トルコ)→成田の5泊7日。トルコ・セルチュク市のレストランでは、トルコとギリシャ・キオス島での伝統料理を体験。イスンブールではトルコ旅行協会を代表訪問し、協会の幹部に日本旅館の魅力を伝えた。フランス料理、トルコ料理、地中海の講義を受けた。

由美子(同)



日本旅館国際女将会の一行がイスタンブールのブルームスクの前で記念撮影

世界のホスピタリティ体験シリーズ ④



セルチュクに友好の植樹



トルコの都市、セルチュクは、エフェソ地方のイズミール県に位置し、人口は約2万3千人。「エフェソの遺跡」や「聖母マリアの家」を目的地に多くの観光客が訪れる。日本旅館国際女将会では、市文化・社会部のオズギョル・カラアリオウヤウズ部長、ギョルバハル・カマズ副部長らの出席の下、日本とトルコの友好の証として国立公園の中央部に12本の松の苗木を植樹した。

▲トルコ・セルチュク市での植樹。日本・トルコ友好の証として松の苗木を植えた



トルコは、年間約3700万人の外国人観光客を受け入れている世界第6位の観光大国だ。日本旅館国際女将会では、トルコ旅行業協会を表敬訪問した。写真：チエイン・ギルジュン事務局長、ダヴァウト・グナイオン理事(左)

旅行業協会を表敬訪問

ス・ケルプ会長、広報担当のギルベク・アシキババ氏に面会。日本旅館を紹介し、訪日旅行の魅力を伝えた。日本からトルコへの旅行客は年間約20万人。トルコの魅力をアピールし、倍増を目指しているという。

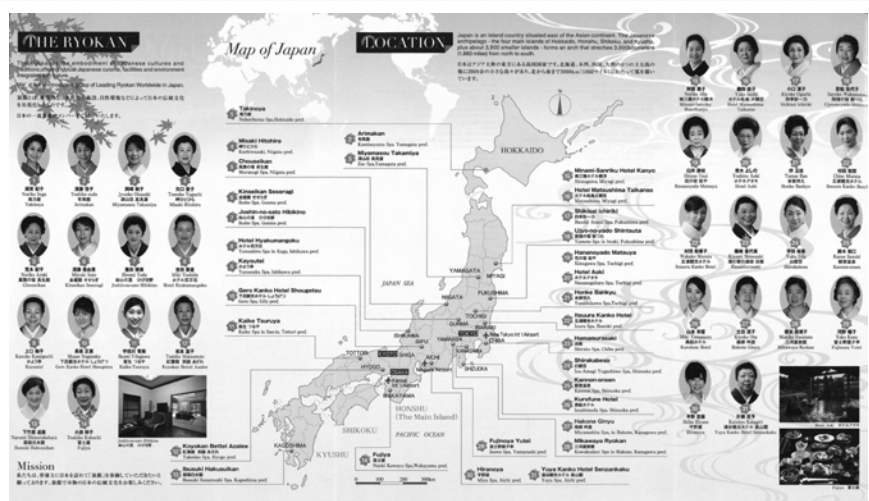
トルコ、ギリシヤを訪問



ギリシヤ・キオス島で植樹を行った

キオス島で交流深める

ギリシヤのキオス島は、エゲ海に浮かぶ人口2万4千人の島。トルコのイズミールから船で約1時間の場所であり、ネア・モニ修道院、中世時代の街並みなどの歴史遺産、自然環境などを観光資源に、多くの観光客を集めている。日本旅館国際女将会の植樹は、エコトリスを推進しているメスタ村で行った。友好を記念して「マステック・ツリー」を植樹。キオス市のデミトリ・カラリ副市長夫妻、同市広報・観光部のレナ・パゴウエイ部長が出席し、現地のエコトリスを推進の第一人者、ヴァシリス・パラス氏の指導の下で植樹した。

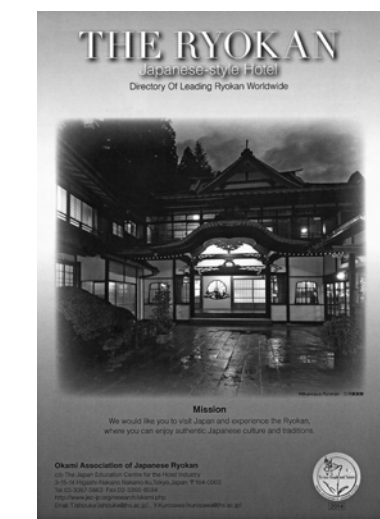


▶日本旅館国際女将会では、日本旅館や女将を紹介する英語版の新しいパンフレットを作成した。メンバーの女将が顔写真入りで紹介されている

旅館、女将を国際語に

日本旅館国際女将会とその活動

日本旅館国際女将会は、「旅館と女将を国際語に」を標語に、旅館の国際化と訪日促進を目指して1995年に設立された。2010年から新たに「世界のホスピタリティ体験シリーズ」を開始し、今年で5年目を迎えた。このシリーズは、従来の訪問している、世界のホスピタリティ体験シリーズでは、世界各地から日本の旅館を訪れる旅行者の背景を知り、さまざまな異文化風俗習慣などを体験する。これまでの日本の伝統的な「おもてなし」に磨きをかけて、グローバルな時代に対応するため、今後も諸外国を訪問して



の協力による公式行事を取り止めたが、その趣旨を踏襲し、世界の著名な「女将イン・パリ」を皮切りに、2009年までの15年間に、17カ国60都市を訪問し、公式行事を15都市で開催した。延べ参加者273人、現地関係者招待1200人、メディア掲載1500点、取材出演テレビ45局などの実績を残した。これまでに、10年にモルジブ、11年は東日本大震災のために休止したが、12年はインド、13年にはスペインを訪問。今年からはトルコ、ギリシヤを訪問している。



▲トルコ料理を食べながらハラルを学んだ
▲エフェソの遺跡(トルコ)を冒す

